光栄の森

2025年11月　毎月1日発行　第207号
発行者　光栄プロテック　松村

11月に向けて

代表取締役　三田雅憲

　今月は、昨年2024年度の11月に掲載していただいた社報から焼き直しした内容をお届けします。
　大阪市に本社を置く「三和建設」さんという、中堅ゼネコンさんより学びたく思います。
　「かつての建設業の人材育成は、成り行きとか天運に任せていたところが多分ありました。私は大手ゼネコンを経験し、大手の状況もあまり変わらなかった印象です。個人が環境にマッチできるか否か、良い先輩の下で学べるか否か、といった具合です。体系化された教育システムはなかったように思えます。大企業はともかく、中小企業は人材のえり好みはできません。なので「使える、使えない」ではなく、今いる社員をどう育てるかを考えることが大切です。現時点で能力が不足している社員がいても、周囲が大変な思いをしてフォローしながら育てるしかありません。一度入社した社員であれば、当人の能力の有無高低にかかわらず全員の活躍の追求をします。社員は家族だと思っているからです。親は子を見捨てないはずです。管理職にも、自分がマネジメントする部下に対して「自分の子供と思って接するように」と伝えています。仮にどんくさい社員だったとしても、育てようという気概を持って人材育成に臨んでほしいのです。」と結ばれています。当社においても、ベテランや中堅社員はよりリテラシー能力(知識や理解)とコミュニケーション能力(表現)を高め、5年以下の社員の教育を担ってもらいたく思います。特に、仕事の技術や経験による知見(カンやコツ)をしっかり若手社員に伝えてあげてほしく思います。(自分だったらこのぐらいはできる等の武勇伝は不要です。)その結果社員一人一人が、プロ技術者として社会に十分貢献できる人間となるように願っています。当社のこれまでの実績や信頼ある仕事を皆さんが積み重ねてくれた結果、昨年のスーパーゼネコン様や住設メーカー様に引き続き日立製作所様より直接取引きが実現いたしました。堅実で信頼のある仕事を積み重ねて、新たなお客様との出会いができますように願っております。
　10月1日には、2026年度4月入社される新卒学生の内定式が大阪本社で執り行われました。大阪は同期が4人となり、彼らが将来当社の礎となってもらえるように皆様も見守り、育てていただきたく存じます。